平成25年度　学校（自己）評価書

東海大学付属翔洋高等学校・中等部

5～1は教員評価（5よい　4おおむねよい　3どちらともいえない　2やや不十分　1不十分）

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	・ひとり一人の教員が学園・学校の教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んでいると自負している。 ・教職員は保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 ・積極的に学校改革に努めるというよりは、抱える生徒の日常の指導に多くの時間と労力を費やさざるを得ない状況だった。 ・非常勤講師の割合が上がり、教員間の意思の疎通・連携が難しかった。	3.4	・学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、よりよい教育に努める。 ・本校の生徒の頑張りや教育の特色をホームページや広報誌で情報発信を続ける。 ・業務の合理化を行い質の高い教育により力を入れる。 ・半数を占める非常勤講師との連携を教科・学年ベースで強める。
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	・3回の授業評価を通じて授業の見直しを行い、生徒の満足度は順調に上がった。 ・各教科が研究授業を行い、授業力向上に努め、生徒の評価も上がった。 ・生徒が授業に参加する姿勢は、年度当初より向上し、落ち着いた雰囲気の中で積極的に学習に取り組むことができた。 ・大学進学のための基礎学力養成に工夫を重ねた1年間であったが、まだまだ十分とは言えない状態であった。 ・家庭学習を習慣化させる努力を教科担当者が行ったが、充分な効果が出なかった。	2.9	・生徒の躓き箇所の確認を行い、中等部・高校の連携の中で学び直しの機会を定期的に与える。 ・自学自習のできる生徒を育てる工夫を日々の授業と家庭の協力で行う。 ・教員は研究授業などで、授業力を上げる努力をする。 ・大学進学を想定した基礎学力の定着に教科担当、クラス担任、学年で対応する。
クラス指導	・遅刻・欠席のないクラスづくり ・いじめのない、お互いが高めあえるクラスづくり	・担任は生徒間の好ましい人間関係の構築に努め、いじめのないクラスづくりができた。 ・担任は個々の生徒にクラス・学校の一員としての自覚を促し、その役割を十分に果たさせることができた。 ・各学年が遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努め、遅刻や欠席は特定な生徒だけになりつつある。 ・昨年同様、学年が低い程、生徒は学校が楽しいと評価しているが、満足度の度合いは、進路選択などの現実的な選択を迫られる3年生は中、高ともに若干下がり気味である。	3.4	・担任は生徒の生活、学習、進路指導を万遍なく行い、生徒が安心して有意義な学校生活が送れるように努める。 ・担任が指導で孤立することのないように、学年や分掌が組織的にバックアップを行う。 ・担任は生徒の出欠席、遅刻、学習への取り組みの様子を保護者に定期的に行い、家庭との協力のなかで生徒の教育にあたる。 ・生徒と保護者が本校で教育を受けることが誇りとなるような教育活動に努める。
生活指導	社会ルールとマナー指導の徹底	・生徒の登下校のマナー、挨拶が向上しつつあり、地域からの暖かい言葉や励ましの声を受ける機会が増えた。 ・教職員は校内の設備、備品使用の指導の甘さを感じており、清掃指導と合わせてきちんとした指導を行う必要がある。 ・紛失物（自転車など）の捜索に生徒と教職員が協力し合い、ほぼ全件が解決した。 ・生徒の頭髪、服装に関しては、生徒の自覚を促すと同時に徹底した指導を行う必要がある。	3.4	・地域の人々に暖かく見守られ、歓迎させる中・高生であるように、意識付けと指導を日常的に行う。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に頭髪、服装の指導にも常に心がける。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。

進路指導	目標設定と進路決定の早期化	・入学後から上級学校への進学指導を進めてきたが、進路選択の時期になってもまだ希望が絞れない生徒が多く、進路決定の早期化に十分に対応できていなかった。 ・進路の方向が定まっている生徒への情報提供は適確に行われている。	3.3	・付属生の進路決定までの流れを繰り返し保護者と生徒に説明し、3年になって困らない指導を計画的に行う必要がある。 ・生徒にとって日々の学習が卒業後の上級学校で活かされるものであることを理解させ、その場的な学習からしっかりとした基礎学力の定着を目指して取り組ませる。 ・保護者への情報の提供はもっと頻繁に機会をさがして行う。
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	・部活動への取り組みに対する評価は、生徒、保護者、教職員ともに共通して高い。 ・委員会活動や係の仕事への取り組みを通した指導に若干の不足があった。	3.3	・勉強と部活動の両立、部活より勉強、と言いながらも学習への取り組みの低さは大きな課題である
研究・研修	公開授業の定期化など	・小、中、高の一貫教育の利点を活かすため、各教科の拡大教科部会を行い、研究授業実施の準備を始めた。 ・理科と英語の授業では、小学校と中等部の教員の乗り入れ授業の準備が整った。 ・保護者向け公開授業を2回実施し、多数の参観者があった。特に2回目は学級懇談会もあり、数多くの保護者の参加があった。 ・学校関係者評価委員の授業見学もあり、手厳しくも暖かい励ましの言葉をいただいた。	・小・中・高の教科指導研究会（授業）を行い、指導内容の充実と指導力向上に努める。	
その他	・世界遺産の中にある学校として、美化清掃以外の活動はできなかった。 ・本校で「ドリーム・サイエンス」第2回を実施し、成功させることができた。			